

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	菜の花 清田館 2階	評価実施年月日	平成20年5月30日
評価実施構成員氏名	伊東 浩一                      吉川 文加 柴田 啓子                      小松田 芳枝 宮川 芳子 堀部 キヨ子 新沼 工		
記録者氏名	伊東 浩一	記録年月日	平成20年7月7日

北海道

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	○	地域の方々が気軽に訪問していただける工夫をしていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
6	○事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	○	参加者の見直しをし、色々な方々の意見やアドバイスをいただき、サービス向上を目指していきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	○	今後必要なご利用者様には、支援をしていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご利用者様の意見・不満・苦情などあった場合、申し送りや、ユニット会議などで改善に向けての話し合いが行われている。ご家族の方とも相談している。更に、思いを伝えられないご利用者様には、言葉や態度・表情から察する努力をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ご利用者様の暮らしの様子は電話やご家族が来訪された時、更に毎月のお便りでご利用者様の状況を報告している。金銭管理においては、個人出納簿で出入金の内容を毎月家族に郵送している。職員の異動等を毎月の菜の花だよりで紹介している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に苦情受付の掲示をしている。家族様よりの意見苦情などはスタッフ・管理者・会社に伝えられ家族への早急な対応と改善に努めている。またアンケートボックスも設置している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	2ヶ月に一度管理者・リーダー会議が持たれ、職員の意見や提案を聞く機会が設けられ、反映されている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	ご利用者様の体調など状況により、必要な時間帯に職員の確保の話し合いを持って、勤務調整を行っている。随時介護度を考慮し対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	菜の花のグループホームは全7館あり自宅近隣へ希望された場合、異動の配慮もしている。職員の要望や意見をいつでも言える環境作りに努めている。また職員と食事会をおこないコミュニケーションを図り、離職を最小限に抑えるよう努力している。やむなく体調不良などによる離職者もご利用者様一人ひとりに挨拶し、明るい雰囲気でお別れを行っている。		

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	○	研修参加者は必ず復命書を書いている。伝達講習については、スタッフに負担がかからないように、報告会を行って行きたい。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	○	今後も相互訪問し、サービス向上に努めたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人にとって、ご家族にとって最善の環境、サービスを本人・ご家族の立場に立って対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	スタッフが自宅を訪問し、自宅での生活やご本人の部屋を見せていただくこともある。ご利用者がまず見学に来て、一緒にレクに参加し、お茶を飲んでいただき、人間関係を築き、溶け込むことができるよう工夫している。併設の通所利用者が頻回にグループホームに来られ、なじみの関係ができてから、入居された方もいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は支援しているという意識を持たず、共に生活しているという視点を大切に穏やかな暮らしが出来るように声かけや場面作りをしている。食器ふき・掃除・庭いじり・読書・歌など一緒に行ない喜怒哀楽をともにし、教えられることも多く、学んだ事は職員同士で意見交換している。ご利用様を人生の大先輩として尊敬の気持ちを忘れずに接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族にもホームの行事に参加をしていただき、共に過ごす時間を作るため一緒に食事をしたり喜怒哀楽を共にする事ができるよう支援している。家族来訪時は記録・写真を見ていただき、生活の様子をお話しし、気になっている事、ご家族の希望など話し合い、一緒に本人を支えていく関係が出来ている。家族会も実施し、希望や意向を聞いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご家族に毎月、手紙を郵送し、日頃のご利用者様の様子を伝えている。またご利用者様のご家族への思いやメッセージを代筆したり、ご家族と一緒に過ごせるよう、外出を勧めたり、ホームでの行事にも参加を促している。更にご家族と居室内で楽しく過ごす事が出来るよう、お茶やお菓子を用意したり、良い雰囲気作りに努め支援を行っている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族の方にはできるだけ訪問していただき、さらに一緒に外出等が出来るようお話ししている。お孫さん・ひ孫さんが頻りに来てお話をされたり、楽しく過ごされている。なじみの美容室や自宅にもご家族と共に出かけている。		

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者様同士の関係を把握し、レク活動なども工夫をし、仲良く過ごせるよう座席に配慮している。ご利用者様同士が仲良く話し合えるよう職員が調整役となりさりげなく、支援をし見守っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	入院され、退去されても、ご利用者様と一緒にお見舞いに行ったり、家族へ電話などしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様の希望や意向を把握、ユニット会議などで情報を交換し、ご利用者様の立場になって考えている。共同生活する上で一人一人がどのような役割を担いたいか、かつてしていた仕事・趣味などを考慮して、家事の手伝いも含め、どのような暮らしを希望しているか把握に努めている。ご利用者様が職員に伝えられないような思いや、日々の行動や表情、サインから把握するようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴や生活環境・サービス利用経過を把握している。ご利用者様と関わった事業所や医療機関からの情報収集に努めている。家族様には入居時にセンター方式のAシートに記入をいただいている。その他必要な情報や、不明な点は来訪時、ご家族から聞いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	センター方式を活用し、出来ることや出来そうなことを見極め、支援している。一人ひとりの一日の過ごし方や、心身の状態、有する力など、小さなサインからも感じ取るようにしている。さらに毎日の観察と記録、申し送りにより把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者がアセスメントと介護計画のモニタリングをし、カンファレンスの中で課題や介護サービスについてご家族やご本人の意向も含め、全職員で検討し、介護支援専門員の監理のもと、介護計画を作成している。		

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>		
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	○	地域包括支援センターとの協同で地域周辺の情報交換を強化していきたい。



は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	終末期のご利用者様を支えるために、スタッフの資質を高めるための育成を図り、さらに他のご利用者様への影響も考慮した対応ができるよう勉強会を実施していきたい。

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者様一人一人を、長い人生経験をもった大先輩として尊重、言葉かけや対応を心がけている。又言葉遣いについてはユニット会議で話し合い、スタッフ同士注意するようにしている。個人情報 は人目に触れないよう管理され、ご利用者様のプライバシーに関する ことを、他者に他言しない事を厳守している。入職時個人情報の守秘義務について誓約書を交わしている。</p>	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>難聴の人にはゆっくりと話し、時には手紙にしたりして伝達している。食事の献立や、飲みたい物を選んでもらっている。又外出、着替えなどご利用者様一人一人が希望したり、選んでもらえるような場面や対応を心がけている。外食の時は、レストランよりメニュー表を事前にお借りして、ご利用者様に見ていただき、食べたい物をご自分で決めていただいている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ご利用者様のその日の状態やペースや希望にあわせて柔軟に対応している。起床や入浴時間、食事にかかる時間などについて、本人のペースや気持ちを大切にご利用者様にあった対応をしている。リビングで自由に過ごしていただいたり、外出や散歩も本人の意向を必ず尋ねている。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>ご利用者様の希望されるネックレス・ネイル・洋服を着られている。月1回の訪問美容を利用したり、本人の望んでいる美容室に家族と共に行かれている方もいる。希望により、パーマをかけ楽しまれている。ご利用者様が自分から決定できない方には、背景等を考慮しながら、出来るだけご利用者様にそった身だしなみの支援に努めている。</p>	
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>肉・さば・ピーマンが食べられない方には、他の食材を取り入れている。外食に行ったり、ご利用者様の希望を食材メニューに取り入れている、又必要時は栄養士と相談をしている。食事の前に嚥下体操を実施、スタッフも一緒に食事をし、食べこぼしや混乱をさりげなくサポート、食事状況を把握している。食後の後片付けや食器洗いや、茶碗拭きもご利用者様と一緒にしている。ご利用者様と畑の野菜を収穫し、その日の料理に使用している。</p>	

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	日常的に希望を取り入れ、バラエティーの富んだ、手作りおやつを召し上がっていただいている。職員はご利用者の嗜好物を把握しており、飲み物についても好きなものを飲んでいただいている。お酒やタバコを好まれるご利用者様はいない。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	常に排泄パターンや習慣を把握して声かけ対応している。排泄の時間を記入し、ご利用者様にあったトイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの体調や状況を把握して、週に2～3回香り風呂を楽しんでいただいている。町内会のジングスカンパティーのあとは、夜間入浴も行った。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	自由に居室内のベッドや、リビングのソファや椅子で休憩を取っている。風邪を引かないよう巡回し、窓の開閉に気をつけている。個人の睡眠パターンや生活リズムを把握し、不眠傾向のある入居者様には夜間熟睡出来るよう、日中の活動支援を考慮して行っている。眠れない方に対しては、コミュニケーションをとり温かい飲み物を飲んでいただいている。又無理に寝ていただくのではなく、ご本人の自由に任せている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴や力を活用して、花壇の整理、畑の苗植え・草取り・収穫、掃除、食事の手伝い、食器拭き、洗濯物たたみ、新聞たたみなどを行い、自信を付けていただいている。散歩や歌・算数ドリルを楽しまれている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	少額のお金を持っているご利用者様もいるが、現金は金庫に保管し、買物時は財布をご利用者様に渡し、自由に買い物をし、支払いもしていただいている。皆さん買い物が好きなので近くのスーパーに職員と一緒に買い物に行くことが多い。		

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p>		
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p>		

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	フロアで記録をしながらさりげなく見守りをしている。又他の職員と連携を取りながら安全確認をしている。ご利用者様の状況にあわせ、時間ごとに全ご利用者様の様子・所在を確認している。夜間帯は1時間ごとに巡回して、優先順位を考慮し、職員の居場所を決め、いつでも対応できるようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	危険なもの(薬・漂白剤等)は保管場所を決めている。異食行為につながることもあるので、個人の状態に応じて配慮している。危険なときは保管している。ご家族にも充分説明している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	環境整理を行い、トイレの床に滑り止め用のマットを敷いたり、嚔下困難者には小さく刻んだり、時にはとろみを使用している。誤薬防止のため3回のチェックを徹底している。転倒など事故があったときは、インシデントレポートを提出し、都度ミーティングで事故の原因と対応、更に再発防止に努めている。	○	緊急時に備えてイメージトレーニングの勉強会を今後も続けていきたい。インシデントレポートは本社にも提出、事故防止についての指導もある。ひやりハットの報告書を活用し、事故にならないように努め、更に一人一人の状態に応じた事故防止に取り組んでいきたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法の実践を日常的に把握できるように、スタッフルームに掲示している。救急救命講習会に職員が参加している。又ユニット会議でも急変時に対する勉強会をしている。	○	6月7日にホーム内で消防署の職員による普通救命講習会が持たれ、4名の方が終了証を取得した。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年に2回の消防署の協力を得て防災訓練を行い消火器の使い方も実際に体験している。終了後講評があり、それをもとに、災害時活かせるよう検討会をしている。防災訓練に地域の方にも参加していただいた。	○	運営推進会議で清田第五町内会の緊急連絡網が作成されたが、近隣住民の協力が得られるようにしたい。
72	○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	転倒の可能性のある方には、ご家族様とも相談し、対応策を話し合っている。下肢筋力が低下しているご利用者様に対しても、積極的に歩行訓練や散歩に出かけている。ご利用者様の自立支援の大切さを含めてご家族に説明協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				

は外部評価項目				
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定を行ない、身体状況や表情・行動・言動の変化を注意深く観察し、さらに水分食事の摂取量、排泄のチェックもおこない、異状に気付いた時は速やかに管理者に報告し、担当医師に連絡し指示を受けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の説明書は個人ファイルに閉じられ、スタッフ全員が確認できるようにしている。変更時には連絡帳に記載され職員間で連携をとり、症状の変化の確認に努めている。誤薬をしないために3回の確認を徹底している。薬を手にとったときの確認、薬の袋を破いたとき、飲ませようとするときは薬の袋に書かれている名前を読み上げている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘予防と対応のため、毎朝の牛乳・水分摂取の促し・散歩・体操・の字マッサージ等を行ない、自然排便が出来るよう取り組んでいる。また排便状況を把握するため、排便チェック表を活用し排便状況を把握している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食前のうがいと毎食後の口腔ケアは毎回実施している。ご利用者様の状況にあわせて必要な介助や支援が行われている。口腔ケアチェック表で磨き忘れがないようにしている。義歯は、夜間帯ポリデント洗浄をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が献立を作成し、カロリーや栄養バランスに配慮している。食事摂取量や水分量もチェック表により把握し、1日1200ml以上の飲水を促している。塩分制限のある方は薄味の味付けで、きざみ食・ミンチ食・とろみの必要な方には必要に応じて対応している。水分が足りない場合は、ゼリーなど作り対応している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防対応として、ご利用者様、スタッフ全員が予防接種を受けている。ご利用者様・職員・家族様には常に石鹸での手洗いとうがいを励行している。手が触れるところ・手すり・椅子・杖・ドアノブ・トイレ内・車椅子等は次亜塩素酸ナトリウムによる消毒清掃も1日2回行われている。感染症マニュアルも設置している。手拭タオルを廃止し、ペーパータオルを使用している。特にインフルエンザやノロウイルスの流行期間は、マニュアルどおりに実施されているか介護部長のチェックと指導がある。		

は外部評価項目			
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	常に安全を考えバリアフリー対策が実施されている。床はじゅうたんを敷き、廊下・リビング・トイレ・浴室にも手すりが設置され、安全確保と自立への配慮をしている。洗面台も車椅子が使用できるようになっている。ご利用様が作業しやすいように、物干しの高さを自動調節できる物にしている。車椅子でも利用できる広いトイレがある。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	ご利用者様のお部屋には名前と似顔絵を描いた表札が張られている。リビングに時計・手作りのカレンダーを設置している。自立度の違いから一人ひとりにあったレクレーション活動とコミュニケーションが図れるように工夫されている。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	1階のベランダにテーブルと椅子を設置し、ご利用者様が外を眺めたり、天気の良い日は、ベランダにて日光浴として楽しまれている。花壇・畑に行き、作物やお花など見たり作ったり楽しまれている。		



V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらい <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族 <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらい <input type="radio"/> ③家族の1/3くらい <input type="radio"/> ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている  <input type="radio"/> ②少しずつ増えている  <input type="radio"/> ③あまり増えていない  <input type="radio"/> ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p><input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/> ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

午前の吉幾三体操とティータイム、午後のパワーアップ体操、更に階段の上り下り、デイサービスまでの歩行など下肢筋力の向上に努めている。

また晴れた日は公園までの散歩を実施している。

おいしいお食事・ゆとりある介護・笑顔のある暮らしに力を入れている。

毎月行事計画を立て、車数台にて、外出したり食事に行ったり、歩行困難な入居者様も全員参加され楽しまれている。

行事を通して社会的交流を持っている。